

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	32	学校名	郡上高等学校
------	----	-----	--------

学校教育目標 (教育方針)	校訓「凌霜」精神のもと、主体的に学び、可能性に挑戦。多様な他者と協働・共存し、ふるさとに誇りと愛を持ち、地域社会に貢献・活躍する様々な人材を育成する。		
3つの方針 (スクールポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分に自信のもてる生徒（自己肯定感の高い生徒）」自身のストロングポイントを生かし、自分らしさを魅力として予測困難な社会の中で力強く生きる自立した生徒 ・「心が美しい生徒」多様性を尊重し、協調する力をもち、世界の一員として正しく行動する生徒 ・「ふるさとに誇りと愛情をもった生徒」人情味や伝統文化を育んだ郷土に誇りをもち、育んだ能力を地域創成に生かす意欲をもつ生徒 	
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びたいことが学べるカリキュラム」一人ひとりの可能性を見極めて進路選択の能力を育み、生徒の意欲に応えられるカリキュラム ・「やりたいことが思い切りできる教育活動」行事や生徒会活動、部活動の充実した取り組みの中で人とつながり、視野を広げることで生きる意味を創造 ・「一流に触れさせ、本質や本物を求める授業等の展開」生徒の興味や資質に応じた幅広い選択、及び企業や地域から招聘した外部講師の活用を通して好奇心を伸ばし、自ら学ぶ学習者を育成 	
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> ・やる気のある熱い生徒 学習や部活動、地域の活動、校内外行事で何かを成し遂げたいという情熱を秘めた生徒 ・人の気持ちを考えられる生徒 自分や他者を大切に思い、また、その気持ちを伝えられる生徒 ・ふるさとを大切に想う生徒 郷土に誇りと愛情をもち、地域の方と積極的に関わりながら社会で生きる力を身に付けたい生徒 	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ①少子化に伴う入学者の減少 ②地域連携事業の増加と人的資源の不足 ③農業科再編に対する地域の認知度不足 ④入学生徒の学力分布の拡大と進路希望の多様化 ⑤教職員の年齢構成の偏りと時間外勤務の増加 		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標 ※（ ）内の番号は上記課題との関連	
	学校経営	地域と積極的に連携した魅力ある学校づくりを推進する（①②③） 教職員の協働を通して、教育理念や教育スキルの継承を図る（⑤）	
	学習指導	多様な学びや能動的な活動を実現するための教育課程の充実を図る（④） 指導と評価の一体化を図ることで、学習意欲の向上を図る（⑤）	
	進路指導	自己を見つめ、主体的に進路選択をするための能力や態度を育成する（④） 家庭での学習習慣形成を支援するとともに、補習授業等発展的な学習機会を提供することで、基礎学力の充実と応用力の伸長をめざす（④）	
	生徒指導	自己を認め他者を受け入れる生徒指導を充実させ、好ましい人間関係の構築を図る 家庭や地域社会との連携を強化し、相談・協力体制の充実を図る	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的取組・方策 ※アンダーラインは評価の視点	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
学校経営	地域力を活用した課題解決学習を主体的に取り組み、「ふるさと教育」を充実させる。	4	施策Ⅰ-4	<ul style="list-style-type: none"> 生徒や保護者アンケートの分析 反省職員会議 校内自己評価 関係者評価 	<ul style="list-style-type: none"> 普通科の総合的な探究の時間や農業の課題研究において、行政や企業などと連携・協力できた。生徒や保護者の評価も高い。 教育課程編成及びクラス編成において生徒の実態、需要に応じた編成をしている。 授業実践において、教員同士が連携したり、授業を参観したりして、授業力の向上や授業の質を高めた。一方で、時間外労働時間を減らす取り組みについては効果が不十分であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○来年度新入生に対して、英語及び数学で習熟度授業を行いレベルに応じた学力の底上げを狙う編成とした。2, 3年次生は複数回の懇談を行い、適切なアドバイスを与えることで慎重にクラス選択をさせることができた。 ▲総合的な探究や課題研究における地域連携は十分に行われているが、教員の業務量や授業とのバランスを図ることが課題である。
	普通科において、習熟度授業の実践や応用クラスの編成により、多様な学力層の生徒に適切な学びの場を提供する。	8	施策Ⅱ-8				
	地域との連携により農業科の授業や課題研究を充実させる。	14	施策Ⅱ-14				
	教職員の業務の適正化を図るとともに、教職員が学び合う協働的な研修の場を創出する。	26	施策Ⅳ-26				
学習指導	主体性を引き出す選択科目の充実を図ることで多様な進路希望に対応する。	8	施策Ⅱ-8	<ul style="list-style-type: none"> 生徒や保護者アンケートの分析 反省職員会議 校内自己評価 関係者評価 	<ul style="list-style-type: none"> 共通テスト受験者から就職希望者まで幅広い進路、または関心に応じられるよう選択科目を設置している。 会議毎に会議の目標を提示して共有を図っている。 全科目でシラバスを配布し、授業計画及び評価の観点、評価の仕方を生徒と共有している。 各教科で研究授業(半期ごとに1回)及び公開授業(随時)を実施している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ▲年度ごとに大きく変化する生徒の需要に対応できるように科目の組合せ、授業定員の設置を検討する。 ○引き続き、教育課程や行事の在り方について周知を図っていく。 ○全科目で作成、配布できている。周知に弱点があるため、紙媒体での配布からデジタル配布に切り替え必要ときに参照できるようにする予定である。 ▲研究授業、公開授業の参観者の人数を増やし意見交流を活発にする必要がある。
	教育課程委員会や学校行事検討委員会などを通じて教育活動の理念と目標の共有を図る。	1	施策Ⅰ-1				
	学習内容や目標及び評価方法等を生徒に明示し、主体的な学習姿勢の育成に努める。	8	施策Ⅱ-8				
	教員間の授業見学や交流などの職員研修を充実させて授業力向上を図る。	26	施策Ⅳ-26				
進路指導	適切な情報提供や進路相談を密に行うことで、希望と適性に応じた進路選択をする支援を行う。	13	施策Ⅱ-13	<ul style="list-style-type: none"> 生徒や保護者アンケートの分析 反省職員会議 校内自己評価 進路実績(進学、就職) 関係者評価 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な進路希望に対応したガイダンスの実施と情報提供を実施した。 関係団体と連携し、企業ガイダンス等を実施し地域の産業や企業を知る機会とした。 地域と連携し、地域課題を解決するための探究活動を充実させることができた。 探究活動、進路状況等を定期的にホームページにて発信した。また模試計画や警報発令時の模試対応などすぐるにて情報提供を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○関係団体と連携を取りながら、多様な進路希望に応じたガイダンスを各年次で実施し進路情報を提供することができた。 ○地域の方々のサポートを得た探究活動の取組みが充実してきている。自身の進路と結びつく生徒もいる。 ▲学校推薦型選抜、総合型選抜を志望する生徒の準備不足が散見される。早期かつ計画的な対応を地道に行う必要がある。
	行政や雇用関連機関と連携して、郷土の産業や地元企業を知る機会を提供する。	13	施策Ⅱ-13				
	個人の課題や社会の課題を発見し、地域の人と関わりながらその解決に向けて主体的に取り組み、考えを表現する機会を創出する。	4	施策Ⅰ-4				
	ホームページやすぐる等を活用し、進路計画の連絡や進路関連行事の報告等を行うことで、保護者や地域に向けて発信を行う。	7	施策Ⅰ-7				
生徒指導	予測困難な現代社会を理解させ、自分と多様な他者の「命の大切さ、尊さ」を各教科の授業や学校行事等を通じて、「美しい心」を育成する生徒指導を推進する。	2	施策Ⅰ-2	<ul style="list-style-type: none"> 生徒や保護者アンケートの分析 反省職員会議 校内自己評価 関係者評価 	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラル防犯講話、薬物乱用防止講話、SOSの出し方教育、人権講話を通して、「命の大切さ、尊さ」を根幹に自分や相手の人権、他者との関わり方、自分自身で身を守る方法を生徒に伝えた。 命を守る訓練を通して、避難経路の確認、災害に対する知識や危機意識を高めることを働きかけた。 相手を理解し受け入れることにより相手の価値観を尊重し、いじめに発展しない言動を集会などを通して生徒に訴えた。 各種アンケート、教育相談などから得た情報をもとに、生徒と向き合い、必要に応じて専門家と連携し対応してきた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○講演会や統一LHRにより、人権意識を向上させることができた。一過性ではなく、日常的に人権意識を高めた行動ができるよう、生徒も教員もさらに心がける必要がある。 ▲様々な状況を踏まえ実際の災害を想定した訓練を通し、災害に備える必要がある。備蓄品の倉庫を校舎外に設置をする必要がある。 ○長期欠席の生徒に対して、頻りに連絡をとり、本人や保護者の意向を確認し、柔軟に対応してきた。 ○各種アンケートから生徒の悩みを吸い上げ、教員間で情報の共有、連携をし事態が悪化する前に迅速な対応ができた。
	年2回の「命を守る訓練」を充実させ、地震や水害等、様々な災害に対する危機意識を高める。	19	施策Ⅲ-19				
	「いじめを絶対許さない」という強い姿勢で保護者と連携し、多様な生徒の理解を深める。	3	施策Ⅰ-3				
	発達段階や家庭環境等に応じて、スクール相談員や外部専門家を活用して支援する。	21	施策Ⅳ-21				

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年2月27日

- ・普通科1年次で実施する習熟度授業において、年度当初にシラバス等を通じて生徒に知らせるとともに、担当教科や関係分掌のミーティングにより適切な教育計画や進路指導を行う。
- ・授業改善や教員の指導力向上のため、公開・研究授業を起点とした教員同士の対話の場を創出する。
- ・探究学習や課題研究での成果を進路実現につなげられるよう、普通科・年次・進路指導の連携によって、早期に進路志望を決める指導を行う。
- ・相談室・ほっとプレイスなど、生徒が気軽に頼れる環境を整備するとともに、スクール相談員やスクールカウンセラーを積極的に活用する。

学校関係者評価

実施日：令和7年2月27日

- ・今の中学校が抱える問題は、学力低下、部活動不参加、スマートフォン依存、学習時間の減少など多様化している。その影響か、学力差も拡大しているが少人数学級にはできない。その中で高校が習熟度授業をしてもらえるのは大変ありがたい。
- ・業務の効率化やデジタル化が進むが、教員同士の対面のコミュニケーションやミーティングを大切にしてほしい。その姿を生徒にも見せてほしい。
- ・中学時代にいじめにあったり、発達障害を抱えていたりする生徒が、保健室や相談室など高校で相談できる場所があるのがありがたい。
- ・「ながら〇〇」の指導をしているということだが、観光地である郡上八幡でも、「食べ歩き」は奨励したくないので、学校の指導に賛同する。